

独立行政法人自動車事故対策機構の令和2年度事業年度評価結果の主要な反映状況

1. 役員人事への反映について

役員人事への反映	中期目標に定められた業務について、中期計画に沿った年度計画が順調に達成され、主務大臣による令和2年度の総合評価が「B」評価であったこと等を踏まえ、役員解任等は行わなかった。
----------	----------------------------------------------------------------------------------------

2. 法人の運営、予算への反映について

評価項目	令和2事業年度評価における主な指摘事項	令和3年度及び4年度の運営、予算への反映状況
国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項	<p>(安全指導業務等 民間参入の促進)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 数値目標に重点を置きすぎて数値を達成することとられすぎている印象を受ける。数をこなせばいいのではなく、どのように役立っているのかという質の部分が重要ではないかと思う。一方でそういった部分に評定をつけるというのは困難であることも事実としてあることはわかる。現状でもやってはいると思うが、もっとユーザーの声を拾い、業務のブラッシュアップを継続的に取り組んでほしい。数値だけの評価からそろそろ脱却してもよいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認定取得に必要な指導講習講師及び適性診断カウンセラーの「要件研修」を実施する際には、毎回アンケートで受講者の声を拾うようにしており、意見要望に対しては、次回に反映させるように努めている。また、資格取得後の「第一種講師研修」及び「カウンセラーの教育訓練」においては、NASVAで培った知見等を伝えることにより、民間参入事業者の安全指導業務の質の維持向上を図っている。
	<p>(療護施設の設置・運営 知見・成果の普及促進、在宅介護者への支援)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 遷延性意識障害の患者を診るというのは非常に大変なことである。患者から感謝を直接言われることがないため、モチベーションの維持も大変な中で現場はよくやっている。一方で、論文については数でみるのではなく、査読が入っている論文等専門の世界でも質の高い論文を出すことを評価の目標に入れることを検討してもよいのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 療護施設で得られた知見・成果については、機構にとどまらない遷延性意識障害の治療等にも寄与するという社会的意義を有することから、学会等における研究発表件数を目標に、研究発表を行っているほか、短期入院協力病院等の看護師等への研修の実施等を通じて、他の医療機関等に治療・看護技術を積極的に普及していくこととしている。 ・ 急性期から慢性期までの連続した治療・看護・リハビリ等の臨床経過観察や症例研究等を行う「一貫症例研究型委託病床」においては、積極的に臨床研究を進めていくこととしている。

その他業務運営に関する重要事項	<p>(施設及び設備に関する計画)</p> <ul style="list-style-type: none"> 千葉療護の老朽化の問題は喫緊の課題であると思うし、うまく運営をしなければならない責務がNASVAにはあると思う。また、新たに結ぶ契約はできるだけ透明性を確保したものにする必要がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 千葉療護センターの老朽化対策については、有識者や被害者団体等を委員とした検討会を設置し、関係者の意見・ニーズを踏まえ、遷延性意識障害者が安心して利用で知る環境を整備しつつ、最も経済的かつ効率的な方法となるよう最適な機能強化を図るべく検討していくこととしている。 契約については公正性・透明性を確保しつつ合理的な調達を促進できるように、毎年度調達等合理化計画を策定及び実施し、外部有識者のご意見を踏まえながら、契約の見直しを継続的に行っていくこととしている。
	<p>(自動車事故対策に関する広報活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> 現状で、様々な活動をしていることは評価できるところであるが、まだまだ世間的な認知は高くはないのではないかと思う。キャラクターを用いたPRをするなどインパクトのある方法を考えてやると効果的である。いずれにしても知名度を向上させることが重要である。 	<ul style="list-style-type: none"> NASVAの認知度を向上させるため、令和3年度にFacebook等を活用したSNS広告を試行的に実施した。今後もマスコットキャラクターを含めた戦略的かつ効果的な広報活動など、NASVAの認知度向上のための施策を実施していくこととしている。